

序論) キリスト者が神様を疎遠に感じる時

みなさんは、神様が自分から離れているように感じたことはないでしょうか。

私達は【主】なる神様を信じています。神様が私達を愛して、救い主イエスキリストをこの世に送り、私達の身代わりとして十字架にかけられ、それによって私達の罪を赦し、私達を神様の子どもにしてくださいましたことを信じています。

でも、私達は色々な時にその神様との関係が疎遠になっているように感じる時があるのではないのでしょうか。

昨年からIT業界ではAIが非常に注目されるようになり、最近ではAIを使ったDeepResearchというものがあります。DeepResearchというのは従来、人が長い時間をかけて、いくつものインターネットの情報を集め、分析して、会社の営業方針や商品開発のための資料を作ることを、AIに任せることです。AIのDeepResearchを使うと、いままで何十時間、下手したら何百時間もかけていた情報収集と分析をものの数分で済ませることが出来ます。

そのDeepResearchで、「クリスチャンが神様との関係が疎遠になっていると感じる時はどのような時かを調べてください」とお願いしたところ、以下のような結果が出ました。

キリスト教徒が神様との関係が疎遠に感じる時

- 1) 祈りや聖書の通読を怠るとき
- 2) 罪を犯したときや罪悪感を覚えるとき
- 3) 感情的・精神的な困難に直面するとき
(うつ病、不安、心配ごとなどで心がいっぱいになったとき)
- 4) 人生の大きな変化や移行期にあるとき
(引っ越し、就職、結婚などで忙しくなる時)
- 5) 苦しみや喪失を経験するとき
- 6) 信仰の成長や試練のための神の導きによる時

みなさんは、どうでしょうか。今までの人生の中でこのような時に神様との関係が離れていることを感じたことはないでしょうか。

祈りの背景)

先ほど読んでいただいたイザヤ書 63章15節～64章12節は、預言というより

は、神様のあわれみを求める祈りとなっています。

預言者イザヤは、神様からの預言を通してアッシリアからの攻撃、南ユダ王国の滅亡、そして、バビロン捕囚という出来事が起こることを知らされていきました。

だから、彼にとってそれらの苦しみは必ず起こる事実であり、イスラエルが神様から切り離されたと思うような困難な出来事でした。

だから、イザヤは今日の箇所を通して、エルサレムの町や神殿が敵に踏みつけられ (63:18)、廃墟とされている (64:10, 11)。そして、イスラエルが神の民でない者かのように扱われている (63:18)。と、悲惨な状況を神様に訴えかけています。

イザヤはこの時、霊的な暗闇の中にいました。そして、その暗闇の中から【主】なる神様という光を求めて祈っているのが今日のみことばです。

みなさん、私達は神様が離れていると感じたとき、神様が自分たちを見捨てたからひどい目あっていると感じるような時、私達は【主】に対してどのように祈ったら良いのでしょうか？ 今日、イザヤの祈りを通して、暗闇の中にいる者がどのように祈ったら良いかを教えられていきたいと思えます。

今日の箇所は非常に長いので、いつものように一節一節を細かくみません。今日のみことばがどのような構成になっているかは、お手元のレジメを見て、後で確認してください。今日はイザヤの祈りからいくつかのポイントにわけてお話しします。

1) 祈りの目的

イザヤはこの祈り目的について目を向けていきましょう。

イザヤはこの祈りを通して、神様が自分たちに目を向け、自分たちを救い出すために実際に行動を起こしてくださることを求めています。15節を読んでみましょう。

63:15 どうか、天から見下ろし、ご覧ください。あなたの聖なる輝かしい御住まいから。あなたの熱心と力あるわざは、どこにあるのでしょうか。私へのたぎる思いとあわれみを、あなたは抑えておられるのですか。

ここで「どうか、天から見下ろし、ご覧ください。」と祈っていますが、当然これは傍観者として自分たちのことを見てほしい。ということではなく、【主】が愛し、【主】の力が注がれる【主】の民として、私たちを見てください。主の愛をもう一度、私たちに注いでください。という祈りです。

イザヤは【主】がイスラエルに対して情熱と力を向けてくだされば、どのような

状況からでも立ち直ることができるかと信じていたのです。

みなさん、私達の厳しい状況が解決する鍵は、神様との愛の関係の回復によります。【主】が私達を愛し、熱心に求め、力を注がれるのならば、私達はどんな状況からも回復することができるのです。

だからこそ、イザヤはこの祈りを通して、神様の思いが自分たちに向き、神様との愛の関係が回復することを求めたのでした。

2) イスラエルが抱えていた問題

問題は、その【主】との関係を壊した原因が、私たち人間側にあるということです。

みなさん、私達と神様との関係が壊れてしまう原因は为什么呢。

そう罪です。

イザヤも、自分たちが【主】の怒りを買ってしまった事を告白しています。

64:5b 実にあなたは、激しく怒られました。私たちはその道で久しく罪の中にいたのです。私たちは救われるでしょうか。

彼はなぜ「私たちは救われるでしょうか」といっているのでしょうか。

それは【主】なる神様は、正義を行う者たちを喜び、罪を犯す者を憎まれるからです。レビ記を読めばわかることですが、【主】は聖なる聖なる聖なるお方なので、罪汚れを徹底的に嫌われます。だから、罪ある者はそのままでは【主】と会うことができない。5節の前半に語られている通りです。

64:5a あなたは会ってくださいます。喜び、正義を行う者たちに。彼らは、あなたの道であなただを心に留めます。

【主】は正しい者と会われます。

じゃあ、神様の前で罪を犯した者はどうしたらいいのでしょうか。その罪を隠して、罪がない者として神様の助けを求めるべきなのでしょうか。そうではありません。

私達だって、自分の子どもが間違っことをしたのに、その罪を認めないで、誤魔化していたら、その誤魔化しをそのままにしておかないと思います。むしろ、自分がどんな間違いを犯したのかを自覚させ、反省させるのではないのでしょうか。

神様が、私達に求めていることも同じです。罪を犯して神様の怒りを買ったのな

らば、その罪を素直に認めることが大切。だから、イザヤは自分たちが罪を犯し、【主】の前に汚れた者であったこと、そして、それにも関わらず【主】を求めなかったことを告白しています。64:6-7 を読みます。

64:6 私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。

64:7 しかし、あなたの御名を呼ぶ者はなく、奮い立って、あなたにすぎる者もいません。あなたは私たちから御顔を隠し、私たちの咎によって、私たちを弱められました。

イスラエルの悪かったところは、偶像礼拝とか、弱者を虐待するとか、そういった罪を犯したことで、そのように罪を犯したにも関わらず、【主】の前に悔い改め、【主】の赦しとあわれみを求めようとしなかったことです。

みなさん、偶像礼拝とか、隣人を愛さないとか、そういうことはもちろん罪なんですけど、そういった罪を犯したのに、【主】の赦しとあわれみを求めないことは、神様との関係が疎遠になってしまう大きな原因なのです。

だからこそ、私達は罪を犯したとき、その罪を素直に認め、その上で【主】に赦しを求めることが大切です。

聖書は自分の罪を告白して、赦しときよめを求めなさいと教えています。

ヨハネの手紙 第一 1:9

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

イザヤは【主】のあわれみを求める上で、罪を犯しながらも【主】の赦しをもとめなかった罪を含めて、自分たちが汚れたものであったことを認めて、【主】の前に告白しています。

3) なぜ、あわれみを求めることができたのか。

イザヤは、イスラエルが【主】の前で罪を犯し、さらには赦しを求めなかったことを認めていました。そして、【主】は正しい者を喜び、正しい者と会われることを知っていました。だから、本来、罪人であるイスラエルは神様に近づけないはずなのですが、それなのになぜ、彼は【主】との関係回復を祈り求めることができた

のでしょうか。それは、例え、罪を犯していたとしても、【主】との関係は変わらないという確信していたからです。63章16節を読みましょう。

63:16 まことに、あなたは私たちの父です。たとえ、アブラハムが私たちを知らず、イスラエルが私たちを認めなくても、【主】よ、あなたは私たちの父です。あなたの御名は、とこしえから「私たちの贖い主」。

イザヤは【主】のことをなんと言っていますか？ 「私たちの父」といっていますね。さらに後半ではなんと言っていますか？ 「私たちの贖い主」といっていますね。64章の8節も読みましょう。

64:8 しかし、今、【主】よ、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。私たちはみな、あなたの御手のわざです。

ここでもイザヤは【主】のことを「私たちの父」といい、その上で「私たちの陶器師」といっています。イザヤがいう「私たちの父」とは、自分たちを生み出してくださったお方、自分たちを造り上げてくださったお方という意味です。

イザヤは、自分たちがたまたま偶然、イスラエル民族になったのではなく、【主】が、彼らを選び、神の民として生み出し、造り上げてくださったから、今の自分たちがあるという確信がありました。だから、その自分たちの造り主である【主】は自分たちの罪を赦し、愛してくださると思ったのです。

みなさんも、料理をしたり、大工仕事をしたり、絵を描いたり、何等かの創作活動をしたことがあると思います。そして、愛情込めて作った作品ならば、その作品を大切に思われるのではないのでしょうか。

神様がイスラエルを造られたということは、神様がイスラエルを愛された証拠です。その上、【主】は、イスラエルを偶像の国エジプトから贖い出されました。救い出されたのです。

だから、イザヤは自分たちの罪を自覚しつつも、それでも自分たちは【主】に愛され、【主】に造られた存在であるということを確認して、【主】に祈り求めたのです。

私たち、キリスト者も【主】によって造られた者です。第二コリント5:17にはこのようにあります。

5:17 ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

例え、救われた後、罪を犯してしまったとしても、【主】によって救われ、【主】によって新しく造られたという事実は変わりません。そして、【主】に造られたのならば、【主】に愛されているという事実も変わらないのです。

みなさん、だからこそ、私たちは罪を犯した後も、【主】に祈り、【主】の赦しとあわれみを求めることができます。

4) イザヤのもう一つの確信

神様と神様に造られ、救われた者の関係は、罪を犯したとしても変わらない愛の関係をイザヤは確信し、【主】にいのっていたのですが、

同時に彼はもう一つの確信を持っていました。

それは【主】の力は世界中を支配しているという確信です。

64章1-3節を読みます。

64:1 ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々はあなたの御前で揺れ動きます。

64:2 火が柴に燃えつき、火が水を沸き立たせるように、あなたの御名はあなたの敵に知られ、国々はあなたの御前で震えます。

64:3 予期しない恐ろしいことをあなたが行われるとき、あなたは降りて来られ、山々はあなたの御前で揺れ動きます。

「あなたが天を裂いて降りて来られる」というのは、キリストの再臨として理解することも出来ますが、ここでは【主】がこの世界に直接働きかけられることを指していると理解してよいでしょう。

【主】がこの世界に働きかけられると、やや山は揺れ動き、国々は震える。

つまり、【主】は世界中をご支配されているということです。

そして、このように世界中に影響を与えることができるのは、【主】しかいないことも、イザヤは64章4節で告白しています。

イザヤは、【主】は、自分たちを愛してくださる創造主であるという確信と、その【主】が世界に働かれるのならば、世界中を動かして、【主】は、どのようにで

も、することができるという確信をもっていました。

つまり、神様の力には世界を自由に動かす力があるという確信です。

みなさんは、神様は世界を動かす力があるという確信をもっておられるでしょうか。今、世界を見てみるとアメリカのトランプ大統領が大胆なことをどんどんやっていますね。人間の性別は男と女しかないと断言したり、ガザをアメリカが所有するなんていって、イスラエル・ガザの停戦協定の後押しをしたり、プーチン大統領に電話して働きかけたり、ウクライナのゼレンスキー大統領に今までの支援金の返還を求めたりして、ロシア・ウクライナ戦争の終結を見据えた働きかけをしたり、一見するとちょっとやり過ぎともいえるようなトランプ大統領の行動に、多くの人が期待を寄せています。人によっては、トランプ大統領ならアメリカやこの世界をなんとかしてくれるのではないかと。といったような一種の信仰ともいえるような期待をしている人もいますようです。

確かに彼の動きによって、いい面でも悪い面でも世界に大きな影響を受けています。ですから、トランプ大統領に期待する人たちの気持ちもなんとなくわかります。

でもみなさん、私たちが信じる【主】なる神様は、トランプ大統領よりももっと大きな力をもっておられ、世界中をご自分の思う通りに支配されているお方なのです。問題は、【主】ならガザ・イスラエル戦争も、ロシア・ウクライナ戦争も、そして、私たちが直面しているあらゆる問題も解決することができるかと、私たちが信じ、期待しているかどうかです。

みなさん、【主】がこの世界を変え、日本を変え、みなさんの職場を変え、家庭を変えることができると現実的に信じていますか？

私は、同じ信仰をもっているはずの人から、信じているけど、現実はずいぶん違うよ。といったことを何回かいわれたことがあります。それも一人ではなく、複数の人からそのようにいわれました。特に男性がそのように言う人が多かったように思います。

でも、私たちは、その困難な現実を、【主】が作り変えてくださると信じて祈ることが大切なのです。イザヤは、その【主】の圧倒的な支配力を信じていたから、【主】へ救いを求めて祈ったのです。

今日の箇所最後ののみことば、64章12節の祈りを読みましょう。

64:12 【主】よ。それでも、あなたはじっとこらえ、黙っていて、私たちをこんなに苦しめるのですか。

人によっては、「【主】よ。私たちをこんなに苦しめるのですか」と言っているこの祈りは、不信仰な祈りのように思えるかもしれません。他にも、63章17節のことばも、自分たちの苦しみの原因を【主】に責任転嫁していることばに思えるかもしれません。

でも、これは【主】なら不信仰なイスラエルの心も、そして、実際にイスラエルを苦しめているすべての原因も変えることができると信じているからこそのことばなのです。

【主】なら、自分たちの心を含めた全ての問題を解決することができる。

そのように信じているからイザヤは祈っているのです。

結論) どのように祈るべきなのか

最後に、私たちキリスト者が霊的暗闇の中にいる時、どのように祈ったらよいかをまとめて終わりたいと思います。

みなさん、私たちは神様が遠く離れているように感じる時、神様の怒りの中に自分がいるように感じたとき、どのように祈ったら良いでしょうか。

まず、私たちが祈るべきなのは、神様との愛の関係の回復です。【主】が私たちに心に向け、思いを向けて、力を振るってくださるように、【主】との関係が回復することを祈り求めましょう。

そして、その関係回復の妨げとなる自分たちの罪を隠すことなく、素直に認めて告白し、【主】の赦しとあわれみを求めましょう。神様との関係が疎遠になる大きな原因は、罪と罪の赦しを求めないことにあるからです。

その上で、【主】が私たちを贖い、新しく造ってくださったという事実をしっかり握りしめ、神様の愛を信じましょう。【主】が、みなさんを救い、神の民として造ってくださった事実は、例え、罪を犯したとしても変わりません。そして、そのようにしてくださった神様の愛も変わらないからです。

その神様の愛を信じて、【主】の救いと助けを求めましょう。

そして、私たちを愛してくださっている【主】は、この世界をも支配し、御心の通りに自由に変えることができるお方であること、神様が働かれるのならば、皆さ

んが直面しているあらゆる問題を实际的に、現実的に解決してくださることを信じましょう。神様の力を信じましょう。

私たちは、創造と救いの事実、そして、实际的な神様の力を信じて、まずは【主】との愛の関係を回復し、【主】に具体的に助けていただくように祈り求めていきたいと思います。

それこそが、霊的に暗闇に捕らわれ、神様との距離を感じた者が祈るべきいのりではないでしょうか。

お祈りします。

★応答の促し

今日、イザヤの祈りを通して、私たちは神様との距離を感じる時、どのように祈るべきかを学びました。

週報の裏面の応答をかく欄に今日の応答を書きましょう。

今日の説教で特に心に響いたのはどんなことですか？

今、神様との関係をどのように感じているか、正直に書き出してみましょう。

告白すべき罪や、赦しを求めるべきことはありますか？ 具体的に書き出してみましよう。

神様があなたを愛し、あなたのために力を尽くしてくださると、心から信じているでしょうか？ その思いを言葉にしてみましよう。信じる思いを書きこんでみましよう。

これから、神様との関係をより深めるために、具体的にどんなことを始めてみたいでしょうか？